

医薬品インタビューフォーム

日本病院薬剤師会のIF記載要領(1998年9月)に準拠して作成（一部2018に準拠）

苦味健胃剤

日本薬局方 ホミカエキス散

ホミカエキス散「ホエイ」

Nux Vomica Extract Powder

剤形	散剤
規格・含量	1g中 日局 ホミカエキス 100mg 〔ストロキニーネ(C ₂₁ H ₂₂ N ₂ O ₂ : 334.41) 0.61~0.68%を含む〕
一般名	和名: ホミカエキス散 洋名: Nux Vomica Extract Powder
製造販売承認年月日	1985年8月6日
薬価基準収載年月日	1951年8月1日
発売年月日	1953年9月
製造販売元	ヴィアトリス・ヘルスケア合同会社
販売元	ヴィアトリス製薬合同会社
担当者の連絡先 電話番号・FAX番号	
問い合わせ窓口	ヴィアトリス製薬合同会社 メディカルインフォメーション部 フリーダイヤル 0120-419-043 https://www.viatrix-e-channel.com/

本IFは2025年7月改訂の電子化された添付文書の記載に基づき改訂した。最新の添付文書情報は、PMDAホームページ「医薬品に関する情報」<https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html>にてご確認ください。

IF 利用の手引きの概要 —日本病院薬剤師会—

1. 医薬品インタビューフォーム作成の経緯

当該医薬品について製薬企業の医薬情報担当者(以下、MR と略す)等にインタビューし、当該医薬品の評価を行うのに必要な医薬品情報源として使われていたインタビューフォームを、昭和 63 年日本病院薬剤師会(以下、日病薬と略す)学術第 2 小委員会が「医薬品インタビューフォーム」(以下、IF と略す)として位置付けを明確化し、その記載方式を策定した。そして、平成 10 年日病薬学術第 3 小委員会によって新たな位置付けと IF 記載要領が策定された。

2. IF とは

IF は「医療用医薬品添付文書等の情報を補完し、薬剤師等の医療従事者にとって日常業務に必要な医薬品の適正使用や評価のための情報あるいは薬剤情報提供の裏付けとなる情報等が集約された総合的な医薬品解説書として、日病薬が記載要領を策定し、薬剤師等のために当該医薬品の製薬企業に作成及び提供を依頼している学術資料」と位置付けられる。

しかし、薬事法の規制や製薬企業の機密等に関わる情報、製薬企業の製剤意図に反した情報及び薬剤師自らが評価・判断・提供すべき事項等は IF の記載事項とはならない。

3. IF の様式・作成・発行

規格は A4 判、横書きとし、原則として 9 ポイント以上の字体で記載し、印刷は一色刷りとする。表紙の記載項目は統一し、原則として製剤の投与経路別に作成する。IF は日病薬が策定した「IF 記載要領」に従って記載するが、本 IF 記載要領は、平成 11 年 1 月以降に承認された新医薬品から適用となり、既発売品については「IF 記載要領」による作成・提供が強制されるものではない。また、再審査及び再評価(臨床試験実施による)がなされた時点ならびに適用症の拡大等がなされ、記載内容が大きく異なる場合には IF が改訂・発行される。

4. IF の利用にあたって

IF 策定の原点を踏まえ、MR へのインタビュー、自己調査のデータを加えて IF の内容を充実させ、IF の利用性を高めておく必要がある。

MR へのインタビューで調査・補足する項目として、開発の経緯、製剤的特徴、薬理作用、臨床成績、非臨床試験等の項目が挙げられる。また、随時改訂される使用上の注意等に関する事項に関しては、当該医薬品の製薬企業の協力のもと、医療用医薬品添付文書、お知らせ文書、緊急安全性情報、Drug Safety Update(医薬品安全対策情報)等により薬剤師等自らが加筆、整備する。そのための参考として、表紙の下段に IF 作成の基となった添付文書の作成又は改訂年月を記載している。なお適正使用や安全確保の点から記載されている「臨床成績」や「主な外国での発売状況」に関する項目等には承認外の用法・用量、効能・効果が記載されている場合があり、その取扱いには慎重を要する。

＜ 目 次 ＞

I . [概要に関する項目].....	1
II . [名称に関する項目].....	2
III . [有効成分に関する項目].....	3
IV . [製剤に関する項目].....	4
V . [治療に関する項目].....	6
VI . [薬効薬理に関する項目].....	7
VII . [薬物動態に関する項目].....	8
VIII . [安全性(使用上の注意等)に関する項目].....	10
IX . [非臨床試験に関する項目].....	12
X . [取扱い上の注意等に関する項目]	13
X I . [文 献].....	15
X II . [参考資料].....	15
X III . [備 考].....	15

I. [概要に関する項目]

1. 開発の経緯	ホミカエキス散はストリキニーネを含有する苦味健胃剤である。 2022年6月、マイラン製薬株式会社からマイラン EPD 合同会社（現、ヴァイアトリス・ヘルスケア合同会社）へ製造販売移管された。
2. 製品の特徴及び有用性	副作用として、長期・大量投与でのストリキニーネの蓄積による痙れんが報告されているので留意すること。 （「VIII-8. 副作用」の項参照）

Ⅱ. [名称に関する項目]

1. 販売名	(1)和 名：ホミカエキス散「ホエイ」 (2)洋 名：Nux Vomica Extract Powder
2. 一般名	(1)和 名（命名法）：ホミカエキス散 (2)洋 名（命名法）：Nux Vomica Extract
3. 構造式又は示性式	該当しない
4. 分子式及び分子量	該当しない
5. 化学名(命名法)	該当しない
6. 慣用名、別名、 略号、記号番号	該当しない
7. CAS 登録番号	該当しない

Ⅲ. [有効成分に関する項目]

1. 有効成分の規制区分	劇薬
2. 物理化学的性質	<p>(1) 外観・性状 黄褐色～褐色の粉末で、弱いにおいがある。</p> <p>(2) 溶解性 該当資料なし</p> <p>(3) 吸湿性 該当資料なし</p> <p>(4) 融点(分解点)、沸点、凝固点 該当資料なし</p> <p>(5) 酸塩基解離定数 該当資料なし</p> <p>(6) 分配係数 該当資料なし</p> <p>(7) その他の主な示性値 該当資料なし</p>
3. 有効成分の各種条件下における安定性	該当資料なし
4. 有効成分の確認試験法	日本薬局方「ホミカエキス」確認試験による。 呈色反応
5. 有効成分の定量法	日本薬局方「ホミカエキス」定量法による。 液体クロマトグラフィー

IV. [製剤に関する項目]

<p>1. 剤形</p>	<p>(1) 剤形の区別及び性状 剤形：散剤 性状：黄褐色～灰褐色の粉末で、僅かに弱いにおいがある</p> <p>(2) 製剤の物性 該当しない</p> <p>(3) 識別コード なし</p> <p>(4) pH、浸透圧比、粘度、比重、無菌の旨及び安定な pH 域等 該当しない</p> <p>(5) 酸価、ヨウ素価等 該当しない</p>
<p>2. 製剤の組成</p>	<p>(1) 有効成分(活性成分)の含量 1g 中 日局 ホミカエキス 100mg [ストリキニーネ(C₂₁H₂₂N₂O₂ : 334.41) 0.61～0.68%を含む]</p> <p>(2) 添加物 バレイショデンプン</p>
<p>3. 懸濁剤、乳剤の分散性 に対する注意</p>	<p>該当資料なし</p>
<p>4. 製剤の各種条件下にお ける安定性</p>	<p>該当資料なし</p>
<p>5. 調製法及び溶解後の 安定性</p>	<p>該当資料なし</p>
<p>6. 他剤との配合変化 (物理化学的变化)</p>	<p>該当資料なし</p>
<p>7. 混入する可能性の ある夾雑物</p>	<p>該当資料なし</p>
<p>8. 溶出試験</p>	<p>該当資料なし</p>
<p>9. 生物学的試験法</p>	<p>該当資料なし</p>
<p>10. 製剤中の有効成分の 確認試験法</p>	<p>日本薬局方「ホミカエキス散」確認試験による。 呈色反応</p>

11. 製剤中の有効成分の 定量法	日本薬局方「ホミカエキス散」定量法による。 液体クロマトグラフィー
12. 力価	該当しない
13. 容器の材質	容器：ガラス瓶(褐色) 中栓：ポリエチレン キャップ：ポリプロピレン シュリンク：ポリ塩化ビニル
14. その他	該当資料なし

V. [治療に関する項目]

1. 効能又は効果	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="528 286 1391 360">4. 効能又は効果 苦味による唾液及び胃液の分泌促進</td> </tr> </table>	4. 効能又は効果 苦味による唾液及び胃液の分泌促進
4. 効能又は効果 苦味による唾液及び胃液の分泌促進		
2. 効能又は効果に関連する注意	設定されていない	
3. 用法及び用量	<p>(1) 用法及び用量の解説</p> <table border="1"> <tr> <td data-bbox="528 602 1391 707">6. 用法及び用量 通常、成人 1 回 0.2g、1 日 0.5g を経口投与する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。</td> </tr> </table> <p>(2) 用法及び用量の設定経緯・根拠 該当資料なし</p>	6. 用法及び用量 通常、成人 1 回 0.2g、1 日 0.5g を経口投与する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。
6. 用法及び用量 通常、成人 1 回 0.2g、1 日 0.5g を経口投与する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。		
4. 用法及び用量に関連する注意	設定されていない	
5. 臨床成績	<p>(1) 臨床データパッケージ 該当資料なし</p> <p>(2) 臨床薬理試験 該当資料なし</p> <p>(3) 用量反応探索試験 該当資料なし</p> <p>(4) 検証的試験</p> <p>1) 有効性検証試験 該当資料なし</p> <p>2) 安全性試験 該当資料なし</p> <p>(5) 患者・病態別試験 該当資料なし</p> <p>(6) 治療的使用</p> <p>1) 使用成績調査（一般使用成績調査、特定使用成績調査、使用成績比較調査）、製造販売後データベース調査、製造販売後臨床試験の内容 該当しない</p> <p>2) 承認条件として実施予定の内容又は実施した調査・試験の概要 該当しない</p> <p>(7) その他 該当資料なし</p>	

VI. [薬効薬理に関する項目]

<p>1. 薬理的に関連ある化合物又は化合物群</p>	<p>硝酸ストリキニーネ 注意：関連のある化合物の効能又は効果等は、最新の電子添文を参照すること。</p>
<p>2. 薬理作用</p>	<p>(1) 作用部位 胃腸管 (2) 作用機序 エキスを単純胃瘻管造設イヌの胃内に投与するとき胃液分泌にほとんど変化は認められないが、コンズランゴ冷浸エキスを同時に適用するとき胃液分泌は増加し酸度も上昇する。さらにエキス又はチンキを単純胃瘻管造設イヌの口内又は胃内に投与するとき胃液分泌、酸度に変化を与えないし、胃、小腸に恒久性瘻管造設イヌになめさせるか胃内投与するとき、バルーン法で胃運動に著しい変化は認められない。なお、strychnine をヒト、イヌの口内又は胃内に投与すると、ゲンチアナチンキとほぼ同様の効果があるという。また脊髄において抑制性シナプス後電位を減弱させて痙攣を引き起こすが、グリシン受容体に特異的に結合することが知られている。ペントバルビタールなどで麻酔したイヌに静脈内投与すると血圧上昇と心拍数増加が現れる¹⁾。</p>

VII. [薬物動態に関する項目]

<p>1. 血中濃度の推移、測定法</p>	<p>(1) 治療上有効な血中濃度 該当資料なし</p> <p>(2) 最高血中濃度到達時間 該当資料なし</p> <p>(3) 通常用量での血中濃度 該当資料なし</p> <p>(4) 中毒症状を発現する血中濃度 該当資料なし</p>
<p>2. 薬物速度論的パラメータ</p>	<p>(1) 吸収速度定数 該当資料なし</p> <p>(2) バイオアベイラビリティ 該当資料なし</p> <p>(3) 消失速度定数 該当資料なし</p> <p>(4) クリアランス 該当資料なし</p> <p>(5) 分布容積 該当資料なし</p> <p>(6) 血漿蛋白結合率 該当資料なし</p>
<p>3. 吸収</p>	<p>該当資料なし</p>
<p>4. 分布</p>	<p>(1) 血液－脳関門通過性 該当資料なし</p> <p>(2) 胎児への移行性 該当資料なし</p> <p>(3) 乳汁中への移行性 該当資料なし</p> <p>(4) 髄液への移行性 該当資料なし</p> <p>(5) その他の組織への移行性 該当資料なし</p>
<p>5. 代謝</p>	<p>(1) 代謝部位及び代謝経路 本剤の主成分であるストリキニーネは、主としてミクロソーム系酵素により速やかに代謝される²⁾。</p> <p>(2) 代謝に関与する酵素(CYP450等)の分子種 該当資料なし</p> <p>(3) 初回通過効果の有無及びその割合 該当資料なし</p> <p>(4) 代謝物の活性の有無及び比率 該当資料なし</p>

	(5) 活性代謝物の速度論的パラメータ 該当資料なし
6. 排泄	(1) 排泄部位 該当資料なし (2) 排泄率 本剤の主成分であるストリキニーネの約 20%は代謝されず尿中にそのまま排泄される ²⁾ 。 (3) 排泄速度 該当資料なし
7. 透析等による除去率	(1) 腹膜透析 該当資料なし (2) 血液透析 該当資料なし (3) 直接血液灌流 該当資料なし

VIII. [安全性(使用上の注意等)に関する項目]

1. 警告内容とその理由	設定されていない
2. 禁忌内容とその理由	設定されていない
3. 効能又は効果に関連する注意とその理由	設定されていない
4. 用法及び用量に関連する注意とその理由	設定されていない
5. 重要な基本的注意とその理由	設定されていない
6. 特定の背景を有する患者に関する注意	<p>(1) 合併症・既往歴等のある患者 設定されていない</p> <p>(2) 腎機能障害患者 設定されていない</p> <p>(3) 肝機能障害患者 設定されていない</p> <p>(4) 生殖能を有する者 設定されていない</p> <p>(5) 妊婦</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>9.5 妊婦 妊婦又は妊娠している可能性のある女性には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。</p> </div> <p>(6) 授乳婦</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>9.6 授乳婦 治療上の有益性及び母乳栄養の有益性を考慮し、授乳の継続又は中止を検討すること。</p> </div> <p>(7) 小児等 設定されていない</p> <p>(8) 高齢者 設定されていない</p>
7. 相互作用	<p>(1) 併用禁忌とその理由 設定されていない</p> <p>(2) 併用注意とその理由 設定されていない</p>

8. 副作用	<p>11. 副作用 次の副作用があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。</p> <p>(1) 重大な副作用と初期症状 設定されていない</p> <p>(2) その他の副作用</p> <table border="1" data-bbox="528 472 1386 613"> <tr> <td colspan="2" data-bbox="528 472 826 506">11.2 その他の副作用</td> </tr> <tr> <td data-bbox="571 506 826 577">精神神経系</td> <td data-bbox="826 506 1386 577">頻度不明 痙れん^{注)}</td> </tr> </table> <p>注) 長期・大量投与でのストリキニーネの蓄積による。</p>	11.2 その他の副作用		精神神経系	頻度不明 痙れん ^{注)}
11.2 その他の副作用					
精神神経系	頻度不明 痙れん ^{注)}				
9. 臨床検査結果に及ぼす影響	設定されていない				
10. 過量投与	設定されていない				
11. 適用上の注意	設定されていない				
12. その他の注意	<p>(1) 臨床使用に基づく情報 設定されていない</p> <p>(2) 非臨床試験に基づく情報 設定されていない</p>				

Ⅸ. [非臨床試験に関する項目]

1. 一般薬理	該当資料なし
2. 毒性	(1) 単回投与毒性試験 該当資料なし (2) 反復投与毒性試験 該当資料なし (3) 生殖発生毒性試験 該当資料なし (4) その他の特殊毒性 該当資料なし

X. [取扱い上の注意等に関する項目]

1. 有効期間又は 使用期限	有効期間：5年
2. 貯法・保存条件	室温保存
3. 薬剤取扱い上の 注意点	劇薬
4. 承認条件	該当しない
5. 包装	500g [瓶]
6. 同一成分・同効薬	同一成分薬：該当しない 同 効 薬：該当しない
7. 国際誕生年月日	不明
8. 製造販売承認年月日 及び承認番号	製造販売承認年月日：1985年8月6日 承 認 番 号：16000AMZ03802
9. 薬価基準収載年月日	1951年8月1日
10. 効能・効果追加、用法・ 用量変更追加等の 年月日及びその内容	該当しない
11. 再審査結果、再評価 結果公表年月日及び その内容	再評価結果：1984年6月
12. 再審査期間	該当しない
13. 投与制限医薬品に関 する情報	本剤は、厚生労働省告示第99号(平成14年3月18日付)において、投与 期間制限医薬品に該当しない。

14. 各種コード	HOT (9桁) 番号	厚生労働省薬価基準 収載医薬品コード	レセプト電算処理 システムコード
	104629815	統一名 : 2333005B1015 個 別 : 2333005B1104	統一名 : 612330215 個 別 : 612330458
15. 保険給付上の注意	該当しない		

X I. [文 献]

1. 引用文献	1) 第十八改正 日本薬局方解説書. 廣川書店. 2021 : D-952-956 2) 第2回スイッチ直後品目等の検討・検証に関する専門家会合 資料5 劇薬指定成分について
2. その他の参考文献	該当資料なし

X II. [参考資料]

主な外国での発売状況	該当しない
------------	-------

X III. [備 考]

その他の関連資料	該当資料なし
----------	--------

文献請求先・製品情報お問い合わせ先

ヴィアトリス製薬合同会社 メディカルインフォメーション部
〒106-0041 東京都港区麻布台一丁目3番1号
フリーダイヤル 0120-419-043

製造販売元

ヴィアトリス・ヘルスケア合同会社
〒106-0041 東京都港区麻布台一丁目3番1号

販売元

ヴィアトリス製薬合同会社
〒106-0041 東京都港区麻布台一丁目3番1号

